

海外移住資料館のたんけん

Key words ことば（動詞）、かるた

1 活用する主な展示および資料

- 展示全般
- 紙芝居「弁当からミックスプレートへ」「カリナのブラジルとニッポン」
- 「移民カルタ」
- 「大判移民カルタ」



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 特に教科・領域は定めない。資料館に社会科見学として来る、特別活動で遠足として来る、総合的な学習の時間の学習活動として来るなど、目的に合わせて、自由に設定。ことば（動詞）に着目した展示探検活動を設定しているため、国語科として時数を計上することも可能。
- 全4時間程度（事前1時間、見学1～2時間、事後1時間）



3 目標

- 日本人移民、日系人の経験について断片的に理解することができる。
【知識・技能】
- 日本人移民、日系人の経験について「動詞」に着目して、関係する展示を探し、発表している。【思考・判断・表現】
- 自分が選んだ「動詞」に着目して、進んで関係する展示を楽しみながら資料館で探し、見つけた内容を学びや生活に活かそうとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】



4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

中学年という発達段階では、日本人移民、日系人の経験を理解することは難しい。歴史学習に関しては地域の昔を調べる経験をしている程度である。そこで、歴史的背景や文化的様子をつかませることよりも、「働く」「運ぶ」「食べる」「着る」「学ぶ」などのことば（動詞）に着目させ、展示室の探検活動を設定する。事前学習として紙芝居を聞くことで、断片的な情報をもとに、展示室を探検する視点を得ることができる。展示室では、「働く」「運ぶ」「食べる」「着る」「学ぶ」ということばに合わせて、展示物を探し、その展示物について理解をしようとパネルを読んだり、質問したりすることで、理解を深めるようにしたい。展示室を入り口から順に理解することを求めるのではなく、自分で探検し、発見し、伝えることの楽しさを体験させたい。

発表では「大判移民カルタ」を用いることで、子どものワクワク感を高め、教師の発表のための準備作業を削減することができる。

5 展開計画

| 流れ | 主な学習活動と子ども(学習者)の意識 | 留意点 |
|-------|---|---|
| 事前学習 | <ol style="list-style-type: none"> 紙芝居「弁当からミックスプレートへ」「カリナのブラジルとニッポン」を2回聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ●1回目は内容をつかむためにメモは取らずに聞こう。2回目は、「誰が何をした/どうした」に注目してメモを取りながら聞こう。 出てきた動詞を出し合い、黒板に整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ●見学するためのキーワードにする「動詞」を二つ選ぶ。 ●私は「食べる」と「働く」を探したい。 | <ul style="list-style-type: none"> ●「弁当からミックスプレートへ」のアニメーションを活用すると良い。  <p>「弁当からミックスプレートへ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●展示の探検につながりやすいように、子どもから出てきた動詞を整理して黒板にまとめる。 |
| 資料館見学 | <ol style="list-style-type: none"> 展示を探す。 <ul style="list-style-type: none"> ●自分が調べたい「動詞」の内容はあるかな。 <ul style="list-style-type: none"> 働く(農業、コーヒー、伐採する、店を開くなど) 着る(はっぴ、農作業着、ユニフォームなど) 楽しむ(祭り、餅つき、食べるなど) 運ぶ(持っていく、トランク、風呂釜など) 学ぶ(勉強、教科書、カード、日本語など) 展示から見つけた内容を一度発表し、もう一度展示室に探しに行く。 | <ul style="list-style-type: none"> ●左の例示以外にも「食べる」「遊ぶ」「育てる」「たたかう」などのキーワードもある。 ●子どもが見つけた内容を記録できるようにワークシートを用意しておくとうい。 |
| 事後学習 | <ol style="list-style-type: none"> 展示で見つけた内容に関連するものを「移民カルタ」の絵札から探す。 <ul style="list-style-type: none"> ●この写真で「働く」を説明できる。 ●この写真は「食べる」の展示です。 ●伝えたい内容とカードを決めよう。 「大判移民カルタ」を使って、「誰が何をした/どうした」を発表し、聞きあう。  | <ul style="list-style-type: none"> ●「移民カルタ」「大判移民カルタ」は資料館から借用することができる。 |

6 学習後の姿

事後学習の後、1～2週間程度、教室に「移民カルタ」を置き、自由に遊べるようにする。絵札を分類したり、普通のカルタと同様に遊んだりすることで、日本人移民・日系人に関する理解を深めてほしい。時間的な余裕があれば、事後学習の発表の動画をビデオにして、保護者会や学習発表の場で活かすこともできる。

海外移住資料館が扱っている「移住」「移民」という事象は、小学校中学年の発達段階では展示内容の理解は難しい。しかし、博物館などで、全部わからなくても良いという安心感を持ち多様な博物館などに行ってみようという姿勢を身につけ、手がかりをもとに自分の興味や関心があるものを中心に展示を探するという経験を生かしてほしい。

7 授業づくりのための参考資料

- JICA 横浜 海外移住資料館 (2009,2011,2012,2021) 『海外移住資料館だより』 No.16, No.23, No.27, No.55